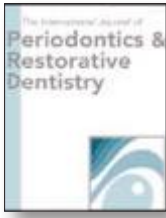


狭窄部位におけるテーパードプラス



A prospective clinical and radiographic assessment of platform-switched laser-microchannel implants placed in limited interimplant spaces.

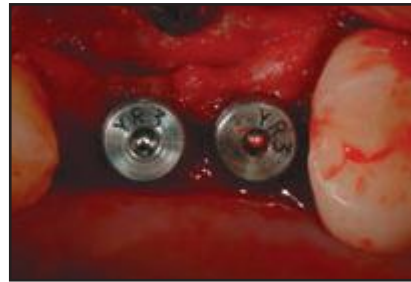
インプラント間の距離が限られた部位に埋入された、レーザー微小溝を持つプラットフォームスイッチングインプラントの前向き放射線学的臨床研究

Myron Nevins, DDS, Sonia Leziy' DDS, Eric Kerr, DDS, MS, Ulrich Janke, Giulio Rasperini, DDS, James Hanratty, DDS, Kirk Pasquinelli, DDS, Tiziano Testori, MD, DDS, Cary A. Shapoff, DDS, David M. Kim, DDS, DMSc.

Int J Periodontics Restorative Dent, Volume 37, Number 1, 2017. P. 33-38.



上顎小臼歯を2本喪失しており、インプラントによる修復を希望した患者



レーザーによる微小溝が付与されたインプラントにヒーリングアバットメントを装着。インプラント間の距離は3mm未満



術直後に撮影された根尖部周囲のX線画像



術後1年の臨床写真。健全な隣接面間乳頭および骨頂レベルに骨の保存が確認できる。



術後1年のX線写真。2本のインプラント間距離は制限されていたが、隣接面間の骨レベルは非常に良好であることがわかる。

緒言

この前向き臨床研究は、審美領域の天然歯の隣接面間隙を再現するため、インプラントを3mm未満の間隔で埋入した場合における硬組織・軟組織の評価を目的として行った。

材料と方法

38本のインプラントを18名の患者に埋入し、上部構造装着後、経過1年以上での評価を行った。全て2～3mmの間隔で2本のインプラント埋入を必要とする部分欠損の症例であり、硬組織・軟組織の状態を放射線学的および視覚的に評価した。

結果

荷重1年後、大部分のインプラントのインプラント・アバットメント接合部のレベルで、隣接歯間面に骨があるように見えた。31本のインプラントについては顕著な骨吸収は認められなかったが、4本には最初のスレッドまでの骨吸収を認め、1本においては2本目のスレッドに及ぶ骨吸収を確認した。

結論

X線写真および口腔内写真から、良好な結果が得られた。ほとんどの症例で健全な隣接面間乳頭が形成され、インプラントのカラー部において根尖方向への骨吸収は見られなかった。どのインプラントにおいても明らかな歯肉退縮は見られなかった。38症例のうち3症例においては、隣接面間乳頭が全て欠如していた。